

家庭科におけるユニバーサルデザインの教材開発 —副読本の作成と授業実践における活用—

Development of Teaching Materials for Universal Design in Home Economics

五藤由樹・横山真智子・夫馬佳代子

GOTO Yuki, YOKOYAMA Machiko and FUMA Kayoko

要約

本研究では、中学生を対象とした衣食住を総合したユニバーサルデザイン教育の普及と実践を目的に、教材（副読本）を作成し、その教育的効用について授業実践に用いて検証したものである。授業実践の結果を副読本に反映して、完成することを目的としている。

中学校の家庭科では、住生活における高齢者の視点で歩く模擬体験や、衣生活に関するユニバーサルファッションを扱う授業など、高齢者の立場から生活を見つめ直す課題に、既に取り組みされている。本研究では衣生活に関し、高齢者衣服の着脱の困難さを体験する授業実践に取り組み、中学生と共に高齢者衣服を考案することを試みてきた。ここでは、これまでの授業実践を踏まえ、日常生活における衣生活及び住生活のユニバーサルデザインについて考えることを目的とした教材（副読本）を作成した。

教材（副読本）「生活の中のユニバーサルデザイン」を用いた授業実践の結果、この内容で取り扱ったユニバーサルデザイングッズ 37 項目の中で、日常生活に普及している商品と、高齢者など特定の人を対象とした商品との間に認識度の差が見られた。衣食住のユニバーサルデザインの工夫を紹介した副読本の導入により、ユニバーサルデザインに対する認識が広まり、生活を多様な視点で捉えることや授業の支援に幅が広がる可能性が考えられた。

本報では、本教材を用いた授業構想及び教材（副読本）内容、授業における教材の効用の一部について報告する。

1. はじめに

家庭科では衣食住生活のユニバーサルデザインについて、中学校及び高等学校で一部取り扱われている。しかし、必ずしも生活における総合的な視点ではなく、住生活で室内の安全性について高齢者の模擬体験を行うなど、各生活場面で個々に取り扱われている。平成20年改訂学習指導要領 中学校技術・家庭科（家庭分野）において、衣生活及び住生活に関して「C 衣生活・住生活と自立」と一つの内容項目として扱われている。衣生活に関しては、住生活で教科書等に記載されている生活の中での高齢者の模擬体験等は含まれていない。そこで、本研究の一環である中学校の衣生活の発展課題として、高齢者の日常的な衣服着脱模擬体験を取り入れた授業実践を行い、模擬体験を行うことにより中学生段階においても、高齢者の立場を考えた衣服の考案に発展させることが可能であることを検証してきた^{1~7}。

本報では、従来の研究成果を踏まえ、多様な生活を見つめる入口として教材（副読本）「生活の中のユニバーサルデザイン」を作成することを目的とし、試作した教材（以下文中では「テキスト」とのみ表

現・記載する)を用いた授業実践を通して、テキストの内容に関し検討した結果について報告する。

ここでは特に、テキスト「生活の中のユニバーサルデザイン」を活用した授業構想及び試作したテキストの内容構成、テキストに記載する生活の中にユニバーサルデザインに関する生徒の認識・知識について報告する。

なお、テキストの効用については別稿で報告する。こうした一連の研究に基づき、テキスト「生活の中のユニバーサルデザイン」を作成する予定である。

2. 研究方法

研究方法は以下に示す手順で行う。

1) 授業の構想

ユニバーサルデザインに関する、テキストを用いた授業の指導案を作成した(資料1)。資料2に、テキストを用いた授業実践における生徒の反応をもとに作成・実践した指導案を示す。具体的な授業構想については後述する。

2) テキスト(副読本)の構想

教材として活用するテキストの試作本を作成した。生活の中のユニバーサルデザインを実際の取材をもとにした写真収集、生活の中の実態調査、文献調査、試作品などに基づき、テキストを作成した。

テキストの中にチェック項目を設け、個別学習にも活用できるよう工夫した。

3) テキスト(副読本)を用いた授業実践

テキストを用いた実践授業協力校は、岐阜県下のA中学校1学年(5クラス)とした。衣生活の基本を学び終えた12月に発展課題として本授業に取り組んだ。

4) 授業実践をもとにしたテキスト(副読本)の修正

テキストを用いた授業実践時の生徒の反応及び授業分析をもとに、テキスト「生活の中のユニバーサルデザイン」を完成させた。完成したテキストの内容構成及び教育的効用については別稿で紹介する。

3. テキスト(副読本)を用いた授業構想

1) 全体の流れ

授業構想として全2時間で計画した。資料1に、テキストを用いた授業の構想として最初に計画した指導案を示す。資料2は、テキストの完成後に内容構成及び授業実践の対象生徒の実態を考慮して、授業構成を修正した指導案である。

第1時では、テキストを用いず高齢者の衣服着脱の模擬体験を行い、高齢者の生活の実態に実感を持って取り組めるように留意した。この体験をもとにして、第2時には「生活全体のユニバーサルデザインを考えてみよう」という視点で、生活の中のユニバーサルデザインについて考える活動に取り組むこととした。こうした活動を支援するのに効果的な教材として用いるのが本テキストである。

2) 高齢者の着脱の模擬体験(実感を伴う学び体験)【第1時】

第1時では、高齢者の生活の模擬体験を通して、身近でかつ日常的に自分とは異なる生活観が存在することに気付くことをねらいとしている。

模擬体験で用いた学習プリントを、資料3に示す。具体的な高齢者の衣服着脱模擬体験は、高齢者の手指の巧緻性が中学生の感覚とは異なることを実感することを目的に、模擬体験群は両手に軍手を着用

し、一般的なカッターシャツのボタンとユニバーサルデザインのボタン（テキスト 6 頁参照）を付けた衣服をそれぞれ着用し、ボタンを留める・外す等の動作のし易さについて比較体験を行った。さらにファスナーについても同様に、市販ファスナーを付けた衣服とユニバーサルデザインのファスナーを付けた衣服を比較して着脱のし易さについて検証した。（写真 1・2 参照）

こうした実体験の結果について、資料 3 に示す学習プリント 1 に記入し、グループ内で高齢者の視点から日常的な衣服着脱の課題とユニバーサルデザインのボタン・ファスナーの効用について検討した。また、テキストを用い、ユニバーサルデザインである製品の確認を行った。

3) テキスト（副読本）を用いた授業実践【第 2 時】

テキストを用いた授業の流れについては、資料 2 に示す。導入では、模擬体験で実感した高齢者の感覚を想起させ、展開では日常生活で用いられているユニバーサルデザインに気付く活動に取り組んだ。その際、開発した試作本を用い、ユニバーサルデザイン探しに活用できるようにした。

<p>3. 本時の目標（1 時間目）</p> <p>自分が高齢者になったときに着たい衣服や履きたい鞋子を考え、身につけて履いて、誰にとっても尊敬し合える衣服や履物について理解することができる。</p>	<p>4. 本時の目標（2 時間目）</p> <p>自分が高齢者になったときに着たい衣服や履きたい鞋子を考え、身につけて履いて、誰にとっても尊敬し合える衣服や履物について理解することができる。</p>	<p>5. 本時の目標（3 時間目）</p> <p>自分が高齢者になったときに着たい衣服や履きたい鞋子を考え、身につけて履いて、誰にとっても尊敬し合える衣服や履物について理解することができる。</p>	<p>6. 本時の目標（4 時間目）</p> <p>自分が高齢者になったときに着たい衣服や履きたい鞋子を考え、身につけて履いて、誰にとっても尊敬し合える衣服や履物について理解することができる。</p>
--	--	--	--

資料 1. ユニバーサルデザイン 指導案（第 1 時・第 2 時）【授業の構想と副読本の活用】

<p>1. 本時の目標（1 時間目）</p> <p>自分が高齢者になったときに着たい衣服や履きたい鞋子を考え、身につけて履いて、誰にとっても尊敬し合える衣服や履物について理解することができる。</p>	<p>2. 本時の目標（2 時間目）</p> <p>自分が高齢者になったときに着たい衣服や履きたい鞋子を考え、身につけて履いて、誰にとっても尊敬し合える衣服や履物について理解することができる。</p>	<p>3. 本時の目標（3 時間目）</p> <p>自分が高齢者になったときに着たい衣服や履きたい鞋子を考え、身につけて履いて、誰にとっても尊敬し合える衣服や履物について理解することができる。</p>	<p>4. 本時の目標（4 時間目）</p> <p>自分が高齢者になったときに着たい衣服や履きたい鞋子を考え、身につけて履いて、誰にとっても尊敬し合える衣服や履物について理解することができる。</p>
--	--	--	--

資料 2. ユニバーサルデザイン 指導案（第 1 時・第 2 時）【授業で用いた指導案】

4. 授業の分析方法

資料3に示す「学習プリント」、及び資料4に示す「授業前アンケート」「授業後アンケート」を基に授業の分析・考察を行った。事前アンケートと事後アンケートの2項目を以下に示す。また、テキストに含まれるチェックシートも分析に用いた。

ここでは、テキストのチェックシートの結果のみについて考察したものを報告する。

具体的な、分析方法として、資料3「学習プリント」では第1時の着脱模擬体験で生徒が記入した市販ボタンとユニバーサルボタンの比較体験の感想から、キーワードを抽出し、高齢者の着脱をどのように把握しているか、ユニバーサルデザインを実感としてどのように捉えているか等について考察する。

第2時に用いる学習プリント(資料3-2)には、テキストに記載されるユニバーサルデザインの認識の現状を把握し(図1参照)、日常生活の中でのユニバーサルデザイン探しに活用する。さらに現在の日常生活でだれもが快適に安全に暮らせる工夫について、具体的に考案した内容について分析する。

資料3-1. ユニバーサルデザイン 学習プリント【第1時】 資料3-2. 同左.【第2時】

資料4-1. 授業前の事前アンケート

資料4-2. 授業終了後の事後アンケート

容器

⑬ 持ちやすく、注ぎやすいペットボトル 真ん中部分にくぼみがある。

⑭ 少しずつ出せる醤油さし キャップの上にボタンがあり、ボタンで出す量を調節できる。(山田化学)

⑮ キャップを開けやすくなる道具 押つところが大きく、握りにくくなっている。小さな力で開けられる。(ウォーターライトエスエム)

⑯ 中身が取り出しやすい壺 フンタツでふたが片手で使える。(山田化学)

⑰ 開けやすい包装 パッケージをつまんで中身を押し出す仕組みなので、片手で取り出せる。(オムニビー)

⑱ わかりやすいパッケージ 服用と使用の区別を色分けしてある。¹¹⁾

⑲ シャンプーとリンスの区別がつけやすい容器 ボンの蓋の部分や側面に凸凹がある。¹²⁾

文房具

⑳ 使い方が変わるはさみ 持ち手の部分がカクタネットのような構造をしている。刃の部分にはカバーがついている。バネの力によって、少ない力で閉ることができる。¹³⁾

㉑ 安全な画びょう 針のまわりにやわらかいプラスチックのカバーがある。誤に刺しても針がとをかない。¹⁴⁾

㉒ 握りやすいペン 握手の形が手の甲に最適なカーブを作り、握力の強い人でも自然にペンを握ることが出来る。¹⁵⁾

㉓ 針がいらぬステープラー 押すだけでとめることができ、針がないので安全。(サンゾート)

㉔ 細かな部分が消ししやすい消しゴム ひとつの消しゴムに、28か所も角がある。¹⁶⁾

その他

㉕ 安全な積み木 コルクでできている。軽くて落ちにくい。大きな音が出ない。¹⁷⁾

㉖ にぎやすく、押しやすいリモコン リモコン本体の真ん中部分だけカーブし、表面の操作ボタンが凸になっている。¹⁸⁾

㉗ 検温終了がわかりやすい体温計 指で検温終了を伝える。耳のや自由な人が使いやすく、寝がしい環境でも使える。¹⁹⁾

㉘ 持ちやすいシャワーヘッド 持ち手の背にグリップが付いているので、手のひらの中指を通してシャワーを握ることができる。²⁰⁾

㉙ 動作が楽な自動販売機 お金を払う、商品を選ぶ、商品を取り出すという動作をする位置が重なっている。思い通りに買ったままでも手が届く位置にある。(日本コカ・コーラ)

㉚ 蛇口の開閉が楽なレバー式ハンドル レバーをスイングさせて止水・吐水するので、大きな力がいらぬ。²¹⁾

⑳ 刃の向きが変えられる爪切り 刃が自由に回転するので、楽な姿勢で切ることができる。²²⁾

㉑ 時刻が見やすい時計 時刻を示す数字と針が大きくしてある。電波で時刻合わせをする。(セイコーウォッチ)

㉒ 楽に使える洗濯機 洗濯槽が傾いて傾いているので筒の奥の人や奥いすれ層が洗濯物を出し入れしやすい。押しボタンでドアを開けることができる。使うボタンが大きく、色が目立つ。²³⁾

㉓ 乗り降りしやすい自動車 スライドドアになっているので、電動でドアが開き、脚の力を頼らずにドアを開閉することができる。(トヨタ自動車)

⑳ 楽な姿勢で使える流し台 ²⁴⁾

㉑ 事故を防ぐ風呂 ²⁵⁾

㉒ 手すりのついた階段 ²⁶⁾

㉓ 広いトイレ ²⁷⁾

㉔ スペースをとらない引き戸 ²⁸⁾

㉕ スロープ ²⁹⁾

㉖ 低い車庫 ³⁰⁾

㉗ ホームエレベーター

㉘ 高さが低く、踏み面が広い階段

㉙ 滑りにくい床

4 街のユニバーサルデザイン

駅

駅のユニバーサルデザインを探そう！
写真を参考にしたり、駅の様子を思い出したりしながら、駅のユニバーサルデザインを下の欄に書きましょう。

(JR岐阜駅) 3035 (東駅) 3036

(新本宮川駅) 3037 (名鉄岐阜駅) 3038

場所	ユニバーサルデザインだと思う点
例: 点字ブロック	目の不自由な人に方向を知らせる。ホームと線路を区別している。

⑳ 乗り降りしやすいエレベーター (新本宮川駅) 3039

㉑ 幅の広い自動改札口 (名鉄岐阜駅) 3040

㉒ 事故を防ぐホーム欄 (東駅) 3041

㉓ みんなで使える多目的トイレ (新本宮川駅) 3042

㉔ 方向を伝える点字ブロック (新本宮川駅) 3043

㉕ 傾斜の緩いエレベーター・エスカレーター・階段 (名鉄岐阜駅) 3044

㉖ よく見える列車情報案内板 (名鉄岐阜駅) 3045

㉗ 見て確認、案内案内表示 (11)

㉘ 足もとにスペースのある券売機

道・公園

道や公園にあるユニバーサルデザインを探そう！
写真を参考にしたり、道や公園の様子を思い出したりしながら、道や公園のユニバーサルデザインを下の欄に書きましょう。

(岐阜駅前交差点) 3046 (岐阜駅前交差点) 3047

(奥町公園) 3048 (奥町公園) 3049 (岐阜公園) 3050

場所	ユニバーサルデザインだと思う点
例: 歩道 (道)	幅が広くなっているため、多くの人が通りやすい。

<道>

⑳ エレベーターつき歩道橋 (岐阜駅前交差点) 3051

㉑ 麓辺の地図などの案内表示 (岐阜駅前交差点) 3052

㉒ 幅の広い歩道 (岐阜駅前交差点) 3053

㉓ 溝のフタ (11)

㉔ 点字ブロック (新本宮川駅) 3054

㉕ ペンチ (11)

<公園>

⑳ 身障者用トイレ (新本宮川駅) 3055

㉑ 休憩所 (奥町公園) 3056

㉒ 楽な姿勢で使える水飲み場 (奥町公園) 3057

㉓ 上下りしやすいスロープ (岐阜公園) 3058

㉔ 車いす利用専用駐車スペース (奥町公園) 3059

㉕ 高さがあり、花の見やすい花壇

5 高齢者や幼児の体験をしてみよう
自分と違う立場の人の気持ちを考えるために、体験をしてみよう。
体験をした後、感想を [] に書きましよう。

☆黄色いメガネを作って、自内障の高齢者の見え方を体験してみよう。
黄色いメガネは、厚紙で作ったメガネのフレームに、黄色のセロファンを二重に貼って作ります。

☆軍手や手袋をはめて、高齢者の手先の感覚を体験してみよう。
・筆を使って、食事をする。 ・小銭を財布から取り出す。 財布に入れる。
・服のボタンをとめる、外す。 ・服のファスナーを閉める、開ける。

☆幼児の視線の高さでは、どのように見えるか体験してみよう。
・ドアの取っ手の位置 ・椅子の高さ ・階段
・洗面台の高さ ・トイレ



■ 高齢者を想定した衣服の着脱行為の模擬体験

写真1. ファスナーをあげる動作 写真2. ボタンをはめる動作

手先で細かい作業が困難な状態を、軍手をはめて体感し、市販ボタンとユニバーサルボタンを比較。ファスナーも一同様に比較する。

なお冊子13頁住居室内図の掲載を省く

はじめに、テキストの構想について述べる。

3頁では、個別学習でも活用できるようユニバーサルデザインの考え方について分かり易く記載する。4頁では基本的な知識として、ユニバーサルデザインとバリアフリーの違いについての基本的な解説を記載する。5頁では、ユニバーサルデザインの7原則を具体的に示し、7原則はだれでもが快適に安全に生活するための基本であることを気づくことができるように留意している。

6頁～12頁は、日常生活で見かける身近なユニバーサルデザイングッズを紹介し、自己チェックができ、楽しみながら取り組めるよう工夫した。6頁は衣服に関するユニバーサルデザインを取り上げ、第1時に高齢者模擬体験で用いたユニバーサルボタン、ユニバーサルファスナー等、実物を見たり使ったりした経験があるものを示した。加えて、脱ぎ易い靴や着脱が容易な水着など、最近開発された衣類も掲載した。7頁には、ユニバーサルデザインの衣類として本研究室で作成したユニバーサルパジャマや食食用エプロン、片手で着脱可能なアクセサリ等を掲載した。

8頁では食事に関するユニバーサルデザインを取り上げた。箸を使い易くする工夫や食べやすいフォーク、プラスチックのまな板など日常的に普及しているものも取り上げ、ユニバーサルデザインが日常的になりつつあることに気付かせる工夫をした。9頁では開け閉めが簡単な容器に見られるユニバーサルデザインを取り上げた。持ち易いペットボトルの工夫や片手で開けれるジャム容器などの普及している身近な商品を選出した。

10頁では、使い易い文房具を取り上げたが、針がいらぬステープラーや消しやすい消しゴムなど中学生に身近な文房具もユニバーサルデザインとしての工夫がされていたことに気付くよう留意した。

11頁は、その他日常生活にみられるユニバーサルデザインを掲載した。

12頁では時計や洗濯機、車にも誰もが使い易い工夫が取り入れられている事例を掲載した。

上記の身近なユニバーサルデザイングッズには□枠の確認欄を設け、自己チェックできるように工夫した。13頁以降は、自分の住まいや街の中にもユニバーサルデザインの工夫がされていることに気付くよう、中学生の身近な駅、改札口や公園、街中の実際の場面からユニバーサルデザインに該当する風景を掲載した。これらの具体的な資料を通して、ユニバーサルデザインについて考えるように工夫した。

6. ユニバーサルデザイングッズの認知度の調査結果 【テキスト6頁～12頁】

1) 認知度調査項目

ユニバーサルデザイングッズの認知度の調査項目は、テキストに掲載したユニバーサルデザイングッズ【テキスト6頁～12頁】の掲載内容をそのまま活用したものである。具体的には、以下に示す衣食住など日常生活に身近にみられる37項目について、試作本の写真を見ながら、自己チェックを行った。

【 認知度調査項目 (37項目) 】

衣服

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. とめやすく、はずれにくいボタン | 2. お腹を締め付けないジーンズ |
| 3. 脱ぎ履きしやすい靴 | 4. 開閉しやすいオープンファスナー |
| 5. 着脱しやすく、着心地のよい水着 | 6. 便利なレディスパジャマ |
| 7. 帽子が飛ぶのを防ぐペンダント | 8. 快適な食事エプロン |

食事

- | | |
|----------------|----------------------|
| 9. 箸を使いやすくする道具 | 10. すくいやすく、食べやすいフォーク |
| 11. 薄くて軽いまな板 | 12. すくいやすい皿 |
| 13. 持ちやすいカップ | 14. すべらないうどん |
| 15. 飲みやすいカップ | |

容器

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 16. 持ちやすく、注ぎやすいペットボトル | 17. 少しずつ出せる醤油さし |
| 18. キャップを開けやすくする道具 | 19. 中身が取り出しやすい蓋 |
| 20. 開けやすい包装 | 21. わかりやすいパッケージ |
| 22. シャンプーとリンスの区別がつけやすい容器 | |

文房具

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 23. 使い方が選べるはさみ | 24. 安全な画びょう |
| 25. 握りやすいペン | 26. 針がいらぬステープラー |
| 27. 細かな部分が消しやすい消しゴム | |

その他

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 28. 安全な積み木 | 29. にぎりやすく、押しやすいリモコン |
| 30. 検温終了がわかりやすい体温計 | 31. 持ちやすいシャワーヘッド |
| 32. 動作が楽な自動販売機 | 33. 蛇口の開閉が楽なレバー式ハンドル |
| 34. 刃の向きが変えられる爪切り | 35. 時刻が見やすい時計 |
| 36. 楽に使える洗濯機 | 37. 乗り降りしやすい自動車 |

2) 調査結果 日常生活におけるユニバーサルデザインの認識

上記で示した37項目のユニバーサルデザインについて、「使ったことがある」「見たことがある・知っている」「初めて知った」など3段階に分類して回答した結果に基づき、グラフを作成した(図1)。

この結果から、日常生活場面での衣食住のユニバーサルデザインの認知度の差が明らかとなった。その具体的な傾向について以下で述べる。

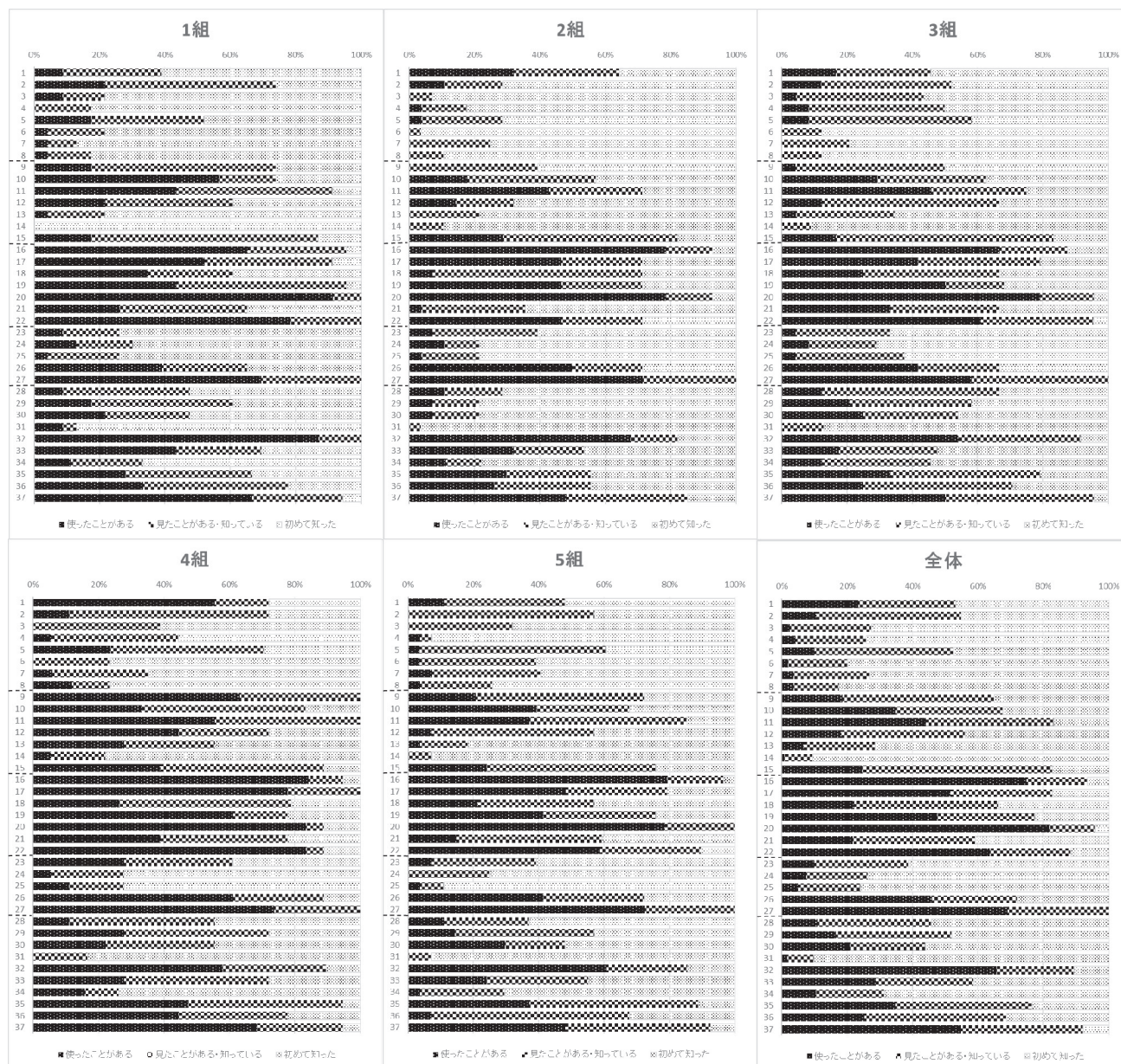


図1. ユニバーサルデザイングッズの認知度の調査結果 (1組～5組 全体)

衣服に関するユニバーサルデザインは「使ったことがある」「見たことがある・知っている」等の認知度が低く、「初めて知った」項目は多くみられる。この背景には、衣服の工夫は高齢者など特定の限られた人々への普及に限られていることが考えられる。エプロンの工夫等も高齢者施設では活用されるものの普及には至っていない。食事に関しては、項目により認知度の差異が異なる。食事用具は認知度が高いが、すべらないうどん(項目14)など特定の高齢者対象の商品への認識は低い。一方で認知度の高い項目は容器や文具に関する項目である。容器に関するユニバーサルデザインの導入は近年各メーカーで進められているが、特に中学生に身近なペットボトル(項目16)や洗髪容器等(項目22)は、日常生活にも普及し身近な存在になってことが伺える。

全体的に見ると、日常生活におけるユニバーサルデザインの認知度はまだ低いことが明らかとなった。日常的に普及している商品と、高齢者等特定の人を対象にした開発商品との認知度には、大きな差がみ

られた。認知度が高い項目は、日常的に普及している商品であるため、今後さまざまな生活場面において工夫が試みられていることを、テキスト教材等を用いて紹介し、視野を広げていきたい。

7. おわりに

中学生を対象とした衣食住を総合したユニバーサルデザインのテキストを作成し、授業実践後の生活におけるユニバーサルデザインについての生徒の認知度について調査した。

その結果、日常生活で目にする機会の多いものに対する認知度は高く、高齢者など特定の人を対象としたものに対する認知度は低かった。

このことから、ユニバーサルデザインについて考える場合、高齢者の模擬体験の導入も効果的であるが、テキストなど副教材で幅広い分野におけるユニバーサルデザインの工夫を紹介することが、生活を多様な視点で捉えることにつながる事が明らかとなった。つまり、本テキストは、ユニバーサルデザインについて効果的な支援教材として活用できる可能性があると考えられる。

今後は、試作テキストを用いた授業分析を行うとともに、こうした分析結果を反映したテキストを完成させていきたい。

なお、本研究の授業実践にご協力頂きました各務原市立桜丘中学校の皆さまに厚く御礼申し上げます。

注

1. 土屋明代 夫馬佳代子「中学校家庭科におけるユニバーサルデザイン教育の提案—生活実態をもとにした教材開発と実践授業報告」岐阜大学教育学部 教師教育研究 10巻 2014
2. 横山真智子・山浦はるか・夫馬佳代子「教職を志す学生に対する現職教員の支援—中学校技術・家庭科におけるユニバーサルファッションに関する授業実践を通して—」岐阜大学教育学部 教師教育研究 12巻 2016
3. 夫馬佳代子・渡辺光雄・長野宏子「ユニバーサルデザインの視点からみた家庭科教育の方法に関する研究—その3「衣」領域から試みたUD教育の実践—」教育学部研究報告 教育実践研究 第10巻 2007
4. 渡辺光雄・長野宏子・夫馬佳代子「ユニバーサルデザインの視点からみた家庭科教育の方法に関する研究—その1「住」領域から試みたUD教育の実践—」教育学部研究報告 教育実践研究 第10巻 2007
5. 長野宏子・渡辺光雄・夫馬佳代子「ユニバーサルデザインの視点からみた家庭科教育の方法に関する研究—その2「食」領域から試みたUD教育の実践（調理行為分析から）—」教育学部研究報告 教育実践研究 第10巻 2007
6. 夫馬佳代子・古田典子「家庭科における生活創造能力の育成を目指した授業実践—創造と自己解放の家庭科教育（4）—」岐阜大学教育学部研究紀報告（教育実践研究）第7巻 2005 中学生を対象としたユニバーサルデザインの授業で、高齢者用の着易い衣服について考案・発表した授業実践報告。
7. 夫馬佳代子・古田典子・杉原利治「生活創造能力の育成を目指した授業の分析①課題の捉え方の推移—創造と自己解放の家庭科教育（5）—」岐阜大学教育学部研究紀報告（教育実践研究）第7巻 2005 中学生を対象とした高齢者の衣生活に関する授業分析。